

平成24年度名古屋市屈折特別検診 のまとめ

愛知県医師会

元倉智博

高柳泰世

水谷聡

名古屋市教育委員会

名古屋市における屈折検診、屈折特別検診の実施方法と結果

1. 名古屋市の小中学校全児童生徒、計16万5,312名を対象にして新学期に屈折検診を実施する。そのうちDDランクの児童(小学生)に屈折特別検診の勧告書を出し、眼科の受診、精密検診を促す。
2. 207名に対して屈折特別検診の勧告書が出され152名が屈折精密検査を眼科で受けた。その結果2名が弱視と診断され指導が行われた。その他、名古屋市教育委員会の調査で7名の弱視児童が普通学級に在籍し、見え方のケアを必要としており、名古屋市における見え方に不自由をきたしている弱視児童は特別支援学校・学級を併せて21名いることがわかった。
3. 普通学級に在籍する弱視児童は座席を最前列にしたり、拡大教科書や眼鏡・ルーペの使用など見え方援助の補助道具を使用していた。

普通学級に在籍している弱視児童 7名の学年別在籍

学年	男	女	計
1年生	1人	0人	1人
2	0	1	1
3	0	0	0
4	0	2	2
5	2	1	3
6	0	0	0
計	3人	4人	7人

屈折特別検診の今後の方向

1. 認定就学者制度の意義を考慮し、児童生徒に対する見え方援助について学校医（眼科）眼科会として、教育委員会と協力して取り組む。
2. 具体的には、拡大教科書、適切なルーペの利用についての指導、援助。試験時間・試験問題について助言をおこなう。特別支援学校・学級との連携で児童生徒の適切な在籍方法について助言を行う。
3. 弱視児童生徒の見え方、学習環境の整備に関する啓発、講演活動を行う